

## 今日の説教のポイント<出エジプト記4章10～17節>

### ①モーセは吃音だった！

神様が選ばれ、エジプトの王に勇敢に立ち向かい、奴隷だったイスラエル人を救い出したモーセ。しかし今日の箇所には、「その役割は私には荷が重すぎます」と神様に固辞し続けるモーセの姿が記されています。そしてその理由も彼ははっきり述べています、「自分はひどい吃音であり、今もなんら変わっていない」と(10節)。

### ②神様はそれを癒されなかった！

注目したいのは、モーセが大きなハンディキャップだと思うその吃音を、神様は奇跡を起こして癒されなかったということです。「一体、誰が人間に口を与えたのか。一体、誰が口を利けないようにし、耳を聞こえないようにし、目を見えるようにし、また見えなくするのか。主なる私ではないか」と言われ、「さあ、行くがよい。この私が(そのうまくしゃべれない)あなたの口と共にあって、あなたが語るべきことを教えよう」と言われたのです(11-12節)。話はその後、こう言われても逃げようとするモーセに対して神様がとうとう怒りを発せられ、雄弁な兄弟アロンを与えと言われる方向に向かいます。しかし、本当は、アロンなしでもモーセは使命を果たすことができたはずですが、モーセを見捨てずむしろ寄り添って下さる神様の隣み深さを教えられますが、同時に、吃音を持ったまま一人で立ち向かうモーセを神様がどう支えて下さったのか見られなかったのが残念な気がします。

### ③「私に何ができるか」から「神様が何をして下さるか」へ！

この話から私たちが聞き取るべきことは何でしょうか。「私に何ができるか」を考えて生きる者から「神様が何をして下さるか」を考えて生きる者になるということ、なれるということ、そのような道を神様が用意して下さっているのだということです。神様はすでにモーセに、「私は必ずあなたと共にいる。このことこそ、私があなたを遣わすしるしである」と言って下さっていたのです(3章12節)。この神様が共にいて下さることを思わず、自分だけを見つめて他者を見下したり、自分を卑下したりしながら生きていること、それが罪なのであり、この神様に立ち帰って生きる者となる、なれる。それが救いなのです！